

慢性咳嗽患者における気道粘膜内肥満細胞の分布

藤田保健衛生大学病院 呼吸器内科・アレルギー科

清水秀康、齊藤雄二、三重野ゆうき、竹内保雄、橋元恭士、佐々木文彦、岡澤光芝、榊原博樹

同院 耳鼻咽喉科 内藤健晴、齊藤正治、伊藤周史

豊橋医療センター耳鼻咽喉科 馬場錬

【背景】近年、慢性咳嗽の患者様は増加している。なかでも咳喘息(以下CVA)、喉頭アレルギー(以下LA)は頻度の多い疾患である。またこれらアトピー素因を有する咳患者の気道への肥満細胞の関与が疑われている。

【方法】CVA患者11名(男性5名、女性6名、年齢 45.1 ± 16.3 歳)、LA患者16名(男性5名、女性11名、年齢 46.5 ± 18.0 歳)に対し喉頭披裂軟骨部、下部気管膜様部、気管分岐部、右気管二次分岐部の生検を行い粘膜面積を測定し気道粘膜に浸潤している肥満細胞数を算出した(また研究会当日はこれにコントロール5名を加えその結果についても報告する予定である)

【結果】下部気管膜様部においてはCVA群においてLA群に比し有意に肥満細胞が多かったがそれ以外の部位には有意差を認めなかった。また各個人における各部所の肥満細胞出現頻度は類似した傾向を示した。